

# あぐり 最前線



## 土壌分析をしましょう！ —コスト低減に向けて—

J Aでは、肥料の過剰施肥による無駄をなくしコスト低減に繋げるため、土壌分析を毎月実施しています。分析を希望される方は、約1合程度(200g)を採り、必ず土壌を乾燥させてから袋に入れ、住所・氏名・TELと、水稲・野菜(キャベツ、ハクサイ等)・果樹(ミカン、カキ等)など品目を記入して、3月15日(金)までに各営業センターへ「持参ください」。分析結果は4月中旬頃に「連絡いたします」。

### 市場出荷休日カレンダー (野菜・果樹)

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

×は出荷できない日 □は日曜・祝日等

※防除薬剤のあとの数字は、安全使用基準で、(収穫何日前まで使用可能か/通算使用可能回数)を表しています。農業は農業安全使用基準を守り、正しく適期に防除してください。

例：表記が(14日/2回)の場合：収穫14日前までに2回使用可能

## 水稲

寒づきをしていない水田は、3月末までに必ず耕起するとともに、**土壌改良資材を施用してください。**

### 土壌改良資材の必要性

栽培期間中、気温が高くなると、乳白米を中心とした玄米の高温障害が増加し、品質の低下につながります。また、土壌中のケイ酸や鉄が不足すると地力が低下し、生育後期に稲の生育活性が低下することで、玄米の品質低下にもつながります。

土壌改良資材を施用し、これらの問題を克服しましょう。

### ケイ酸・鉄・リン酸の必要性

ケイ酸は、根や葉を丈夫にするので倒伏や病害(いもち病、(ま葉枯病等)を軽減します。また受光体制の改善により登熟歩合が向上します。

鉄は水稲の根を守る働きがあります。鉄分が不足すると根腐れによる「秋落ち」が生じる原因となります。

リン酸は、作物の根の発育を盛んにするので、ケイ酸が一層良く吸収されます。

### 土づくり資材

・農力アップ(100kg/10a)  
\*秋落ち田では140kg/10a

鉄・ケイ酸・リン酸をバランスよく含み、土づくりに適した資材です。水稲の栽培に必要な成分を効率的に吸収できるよう設計されています。特に、ケイ酸の溶出に優れ、吸収効率が大幅にアップしています。

## キャベツ

●追肥  
※石井中早生・Y R春空

は、圃場の準備作業が始まります。新シヨウガを定植する30~40日くらい前には、完熟堆肥を施用し、深耕整地を行ってください。

・新ふりかけ堆肥eco(300kg/10a)  
または  
・ハイフミンハイブリッドG(300kg/10a)  
または  
・プロ有機(100kg/10a)

### 定植

植え付けの3日前頃に十分灌水し、土壌を湿らせておきましょう。種イモは変色や腐りのないものを使用してください。

## シシトウ

### わき芽摘み

圃場に定植し活着した後にいきます。摘み取り作業は、わき芽が長く伸びないうちに早く行うことが大切です。摘み取りが遅れると傷口が大きくなりやすく、また、天候の悪い日に摘み取ると傷口から病原菌が侵入する原因となるので注意しましょう。

### 夜温管理

果実の肥大には昼温より夜温の影響が強く、夜温を20℃以上で管理することが大切です。夜温が高すぎると落蕾、落花数が多くなりやすいですが、良い花の数が増えれば花数が多いので、夜温を高めめに管理して開花数を増やし、良い果実を短期間に肥大させて収穫するほうがよいでしょう。

### 出荷の注意点

・ニューパワーユーキ262(80kg/10a)  
または  
・アツマップ545(80kg/10a)  
握りこぶし程度の大きさに結球した時に施用してください。

### 病害虫防除

▽3月下旬  
●春のかほりSP③  
※アクセル(フ) 100倍(前日/3回)  
※バリダシン(液)5 800倍(7日/5回)  
※石井中早生・Y R春空  
・グレイシア(乳) 200倍(7日/2回)  
・ウララDF 200倍(前日/2回)  
・シグナムWDG 1500倍(7日/2回)  
※SE  
・グレイシア(乳) 200倍(7日/2回)

### 菌核病

●菌核病の徹底を!!  
菌核病の発生が多い傾向にあるので、防除を徹底してください。発生後の防除は困難なので、次の薬剤を中心に予防的に散布してください(特に結球開始期以降は要注意)。

### 予防

①花落ち付着に気をつけてください。  
②果実はヘタの切り口が新しいものを選び、収穫後は速やかに出荷してください。  
③選果・選別基準を守ってください。  
(変形・色・大小・入数等)  
④病害虫果の混入、特に灰色カビ病、ヤケ果には注意してください。特に注意する点は適期収穫の徹底で、シシトウの長さが5.5~6.4cmのものを収穫するように心がけてください。バック詰め作業では、各段階とも長さや形状が正常であっても、特に太いものや色のうすいもの、花やゴミ等が入らないように注意し、天候が悪い時に収穫したシシトウは風乾を行い、ムレのないように注意してください(特に灰色カビ病の発生圃場では、バック内で病気が蔓延する恐れがあります)。

### 無加温栽培

定植時にアドマイヤー1粒剤(1~2g/株「定植時1回」)を植穴又は株元へ土壌混和してください。アブラムシ類、ミナミキイロアザミウマの防除に必要です。

## 青ネギ

### 播種・定植

ビニールトンネル等で被覆すると生育が良くなります。

### 病害虫防除

さび病とべと病はどちらも低温・多湿の条件を好むので、長い降雨の後には防除が必要です。また、夜間にもや・霧

・シグナムWDG 1500倍(7日/2回)  
または  
・ファンタジスタ(顆) 2000~3000倍(3日/3回)  
▽治療  
・アミスター20(フ) 2000倍(7日/4回)

## ハクサイ

●定植  
※黄葉70(パオパオがけ)  
▽2月25日~3月15日

●施肥  
・苦土セルカフミン(160kg/10a)  
▽元肥

・ニューパワーユーキ038プラス(120kg/10a)  
▽追肥(活着後・パオパオ除去後)  
・ニューパワーユーキ262(60kg/10a)  
または  
・あさひS602(120kg/10a)  
▽追肥(活着後)  
・あさひS602(80kg/10a)

が発生すると同じく多発の原因となります。降雨前には予防効果、降雨後は治療効果を持つ薬剤を使用してください。

また、乾燥条件ではアザミウマの発生が多くなります。日中は葉上にいます。気温が下がると株元の葉の隙間に潜るため、株元まで薬剤がかかるように散布しましょう。多発すると農薬での防除が困難なため、発生初期の農薬散布に努め、有効な薬剤のローテーション散布を行います。

## ニンジン

### 裂根対策

ニンジンには本葉4~7枚の頃から芯部の細胞増加と肥大が始まります。この時期は次の急激な生長の始まる基礎づくりの時期で、もし肥料不足や乾燥、低温等によって生育が抑えられると、細胞の増加がにぶり、致命傷となります。裂根はこの時期の障害が原因で起こるもので、毎年裂根が多く発生する畑では「土づくり」に力を入れ、発芽を揃え、乾燥や肥料不足にならないように注意することが大切です。

### 圃場の準備

元肥を全層に施用し、15cm以上深く耕起しましょう。

### 播種

2条に浅く播種し、防寒被覆資材を全面に被覆後、十分に灌水しましょう。低温期で発芽に日数を要するため、土壌が乾燥しないように適宜灌水を行いましょう。

### 一発肥料型

・園芸一発S679(200kg/10a)

### 病害虫防除

◎石灰欠乏症(アンコ)  
春ハクサイでは特に発生しやすいので、適宜灌水で予防しましょう。  
・パフォームCa 500倍  
結球開始期までに葉面散布を2~3回行ってください。

## ブロッコリー

●定植  
※ピクセル▽3月1日~10日

### 施肥

●元肥  
・苦土セルカフミン(160kg/10a)  
・ニューパワーユーキ038プラス(140kg/10a)  
または  
・エコレット26(140kg/10a)  
▽追肥(活着後)  
・ニューパワーユーキ262(60kg/10a)

### 一発肥料型

・園芸一発S679(200kg/10a)

### 病害虫防除

※グラントーム▽3月中旬  
・アクセル(フ) 1000倍(前日/2回)  
・コルト(顆) 400倍(前日/3回)  
・ナレート(水) 1000倍(14日/2回)

## 新シヨウガ

3月下旬にシヨウガの定植を行う方

# ウメ



今年の開花は平年よりやや早い状況で交配面が心配されますが、適期防除を基本に、良品生産に努めましょう。

## 晩霜対策

受粉した花は、2〜3週間後から低温抵抗性が低下します。幼果は霜害により萎縮・落下します。低地や谷間の冷気が停滞しやすい園地は、風通しを良くするため、防風垣下部の刈り込みや防霜ファンを使用し予防しましょう。

## 病害虫防除

防除は、降雨前に行うのが基本です。殺菌剤は、菌に感染する前に果実(葉・枝)を防除しないと効果がありません。かいよう病・灰色カビ病・黒星病は、雨が感染源で広まります。感染後の防除は手遅れです。降雨前の予防散布に努めましょう。

▽3月上旬・中旬

◎かいよう病(ガク落ちまで)

・Zボルドー 500倍(葉芽発芽前まで)

または

・ICボルドー66D 50倍(葉芽発芽前まで)

◎灰色かび病

・ベルコート(水) 200倍(30日/3回)

\*薬害発生の恐れのある場合(高温時はクレフノン 200倍を加用してください。)

▽3月下旬

◎かいよう病

※小梅等

・マイコシールド 150倍(21日/4回) ※南高

・カスミン(液) 500倍(30日/2回)

・黒星病・すす斑病

・スコア(顆) 300倍(前日/3回)

◎アブラムシ類

・スタークル(顆) 200倍(前日/3回)

# モモ



3月には開花が始まります。大玉果生産には欠かせない摘蕾作業が中心になります。

## 摘蕾時期

3月上旬から開花前にかけて行います。蕾がふくらみ始め、赤みを帯びてきた頃が最も蕾が落ちやすく、効率的に作業ができる適期です。時期が早すぎると蕾が固く落とすにくく、開花直前になると葉芽を傷つけやすいため注意が必要です。本格的な摘果は5月からですが、樹勢の弱い樹は4月から行ってください。また、同時に枯れ枝を除去しましょう。

## 病害虫防除

▽3月上旬

◎黒星病・縮葉病

・トレノックスフロアブル 500倍(7日/5回)

▽3月下旬(開花直前まで)

◎せん孔細菌病

・ICボルドー66D 50倍(随時)

\*石灰硫黄合剤とは10日間あけてください。

# カキ



気温の上昇とともに、3月下旬頃から発芽期を迎え、本格的な生育が始まります。この時期は晩霜にあう危険性が高く、霜害で芽が枯れることがあります。特に、晴天で風のない日は霜が降りやすいので、気象情報には十分注意してください。

## 晩霜対策

一般的に、低気圧の後に高気圧が張り出し、風が止んで夕方から夜空が澄み渡った日の翌朝の『底冷え』を感じる時、凍霜害が起こりやすくなります。対策としては、スプリンクラーで水を流し凍結を防ぐ散水法、風を送ることで空気を循環させ、霜が降りるのを防ぐ送風法があります。

## 病害虫防除

▽3月下旬(萌芽直前)

◎カイガラムシ類

・石灰硫黄合剤 10倍(発芽前まで)

・ネオエスチリン 500倍加用

◎うどんこ病

・ホーマイコート 100倍(休眠期/1回)

◎炭疽病

・ホーマイコート 50倍(休眠期/1回)

\*「炭疽病」の対策として、早めの落葉処理を行ってください。

## 除草

春草があると、地温の上昇・水分の吸収を妨げ、春肥の吸収が悪くなります。早期に除草しましょう。

# ミカン



12月〜1月にハーベストオイルを散布できていない園地では、剪定後の3月中・下旬までに、カイガラムシやハダニ類防除としてハーベストオイルを80倍で散布してください。ハーベストオイルは、虫を油膜で覆い、窒息死させる働きをするため、農薬の抵抗力をつけることなく高い防除効果が期待できます。樹冠の内側や葉裏まで丁寧に散布しましょう。

## 病害虫防除

昨年、かいよう病・そうか病の発生が見られた園地では、必ず発芽前にICボルドー66Dを60倍で散布してください。ただし、オイル等との混用、および1カ月以内の散布はできないので注意してください。

## 除草

気温が上昇してくると春草の生育が旺盛になります。春肥を効率的に樹に吸収させるためには、施肥前の除草が必要です。土壌表面を裸地にすると地温の上昇にもつながり、春肥の肥効を高めることにもなります。プリグロックスル 150倍(雑草生育期 但し、収穫前日まで/5回)

## 春肥

春肥の施用は、発芽した春芽の伸長や充実、開花結実、発根に大きく影響する大切な作業です。

▽3月上旬

・ニューわかやま味一ブリケット(80kg/10a)

または

・わかやま配合(80kg/10a)

# 生産緑地講演会

## 開催のお知らせ

- 生産緑地の制度について  
講師：和歌山市まちなみ景観課職員
- 都市農地の貸借の円滑化制度について  
講師：和歌山市農林水産課職員
- 個別相談会

日 時	令和6年3月13日(水) 13:30~15:30
場 所	J Aわかやま中央営農センター2階(和歌山市栗栖660-1)
参加費	無料
お申し込み	最寄りの営農センター
お問い合わせ	営農生活部 ☎473-9402 Email: einou@wky.jawink.ne.jp



## 野焼きは原則禁止です。

適法な焼却炉以外(ドラム缶など)で廃棄物を燃やす行為(野焼き)は、法律で原則禁止とされています。農業を営む上で、やむを得ず発生するものの焼却は例外とされていますが、よく乾燥させてから少量ずつ焼却するなど、近隣の皆さまの迷惑にならないよう、お願いします。

## J Aファーム 令和6年産 水稲作業委託受付中!

例)代かき・田植え・稲刈り:etc

●申込締切日 3月8日(金)

お問い合わせ、お申し込みは 最寄りの営農センター・支店まで

# 果樹経営支援対策事業を活用しましょう!

- 優良品目、品種への転換 (2a以上)**  
果樹類の優良品目、品種など産地振興品目、品種への転換に対する助成です。  
① 転換元がかんきつ類:23万円/10a ② 転換元が落葉果樹:17万円/10a  
③ 転換先が指定落葉果樹以外:税抜き事業費の1/2以内 (3社見積もりが必要です。)  
※指定落葉果樹とは、桃、梅、イチジク、ブドウ、栗を指します。
- 小規模基盤整備 (10a以上)**  
園内道などの整備に対する助成です。  
○ 補助率: 税抜き事業費の1/2以内 (3社見積もりが必要です。)
- 品質向上施設の設置 (10a以上)**  
多目的スプリンクラーやマルチドリップなどの設置に対する助成です。  
○ 補助率: 税抜き事業費の1/2以内 (3社見積もりが必要です。)
- 特認事業 (10a以上)**  
代替軌道施設、防霜・防風施設(受電設備は含まない)の設置に対する助成です。  
○ 補助率: 税抜き事業費の1/2以内 (3社見積もりが必要です。)  
※モ/ラック(本機と荷台のセット)の更新(安全鑑定取得機種で既存設備より牽引能力、積載能力の向上が条件)とそれに伴うレールの延長、支線の整備、レールの更新ができます。
- 果樹未収益期間支援事業 (5a以上)**  
優良品目、品種へ転換した担い手に対して未収益期間(5年間)のうち、改植初年度を除いた4年間の果樹の育成経費の一部を定額で支援するものです。  
○ 補助単価: 22万円/10a (5.5万円×4年)  
※事業終了後、果樹経営支援対策事業の補助金と一括で支払われます。

**事業対象者** 以下のすべての条件を満たす必要があります。

- 以下のいずれかに該当すること。  
①認定農業者 ②農業所得が主で60歳代までの者がいる農家 ③農業所得が主で後継者が確実にいる農家 ④農業生産法人 ⑤新規参入者
- 温州みかんに関する事業を実施する場合は、温州みかん需給調整対策事業に参加していること。
- 小規模整備基盤・品質向上施設の設置・特認事業の助成を受ける場合は、果樹共済または収入保険に加入(共に困難な場合は収入保険への加入準備開始)していること。

詳細は、最寄りの営農センターまでお問い合わせください。  
事業のお申し込み締め切り日 令和6年3月15日(金)

# クビアカツヤカミキリから 「モモ」「スモモ」「ウメ」「サクラ」を守ろう!

**クビアカツヤカミキリ**  
(別名：クロジャコウカミキリ)とは

樹木の内部を食い荒らし、枯らしてしまう外来昆虫です。特定外来生物に指定されており、飼育や移動が規制されています。生きたまま持ち運ぶことは違法です。

 **情報提供のご協力をお願いします**



【成虫】

体長：2～4cm  
成虫発生期：5月下旬～8月中旬  
卵から1～3年で成虫となる。  
成虫の活動時間帯：日中



【ミンチ状のフラス】



【株元に溜まったフラス】

幼虫はバラ科の樹木（生木）の内部を食害し、枯死させる。  
樹から特徴的なミンチ状のフラスを排出する。  
幼虫の活動時期：3月下旬～10月  
幼虫の越冬時期：11月～3月

## 防除対策

- **成虫の防除（5月下旬～8月）**  
主に幹や枝を狙い、登録のある農薬を散布及び捕殺。
- **幼虫の防除（3月下旬～11月）**  
太めの針金等で、食入孔のフラスをかき出し、幼虫を刺殺してスプレー缶型の農薬を噴射。
- **被害樹の伐採・抜根（9月～翌年4月下旬）**  
伐採樹は破砕、または焼却処分。  
成虫の分散を防ぐため、成虫活動期は応急処理として樹をネットで被覆する。



被害樹へのネット被覆

## ○県内の被害状況

令和5年11月末現在、農地（モモ、スモモ、ウメ）では5市3町、800園地、3,187樹、農地以外（サクラなど）では5市3町、89地点、227樹で被害が確認されています。  
※数値は初確認（令和元年11月）からの累計（樹木は伐採済みも含む）

## 和歌山市の被害状況

	令和3年7月末時点		令和3年11月末時点		令和4年12月末時点		令和5年11月末現在	
	園地数	被害本数	園地数	被害本数	園地数	被害本数	園地数	被害本数
農地(モモ、スモモ、ウメ)	2	2	8	11	16	29	21	47
農地以外(サクラなど)	1	1	4	5	7	17	18	58
累計	3	3	12	16	23	46	39	105

**フラスや成虫を見つけたら下記の電話番号にご連絡ください**

- 農地** 和歌山県 海草振興局 農林水産振興課 TEL：073-441-3382
- 森林** 和歌山県 海草振興局 林務課 TEL：073-441-3366
- その他** 和歌山県 海草振興局 衛生環境課 TEL：073-483-8825



クビアカ情報